

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） 栈橋部基礎杭打設を開始しました。

記者発表資料

東京国際空港（羽田空港）の4本目の滑走路（D滑走路）建設工事は、埋立構造と、栈橋構造（ジャケッ）を組み合わせたハイブリッド構造になっており、連絡誘導路橋により、現空港に接続されます。

栈橋部は、海中に打設した鋼管杭、鋼管杭に据え付けられた鋼製のジャケッ及びジャケッ上部桁上に敷設されたコンクリート床版と舗装で構成されます。

この度、12月8日から工事区域において、ジャケッ据え付けに先立ち、基礎杭（鋼管杭）の打設を開始しました。

基礎杭（最長：約91m）を海底下約70mの深さまで地盤に打ち込み、軟弱地盤からはるかに深い杭を打ち込むことで、沈下がなく、地震にも強い栈橋が完成します。基礎杭の施工は、杭打船を使用し、バイブロハンマー及び油圧ハンマーで打設します。東京国際空港（羽田空港）空域制限の影響を受けない範囲は昼夜間施工を行い、影響を受ける範囲は夜間の制限解除された時間帯に夜間施工を行います。

栈橋部では、約1,200本の基礎杭を打設し、平成20年1月上旬からジャケッの工事区域への搬出・据付を順次開始する予定です。

また、連絡誘導路部においても、鋼管杭（最長約84m）の打設が12月5日から開始されており、約800本打設する予定です。

今後、これらの杭打設、ジャケッ据付が平成21年度後半まで約2年間続く予定です。

平成19年12月14日

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 都庁記者クラブ 横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会 千葉県政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
D滑走路プロジェクト推進室 四家・近藤（隆）
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7
メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6573
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

東京国際空港D滑走路建設工事 基礎杭打設状況

1. 棧橋部基礎杭打設状況

12月8日から工事区域において、ジャケット据え付けに先立ち、基礎杭（鋼管杭）の打設を開始しました。

① 吊り込み状況



② バイブロハンマーによる打設状況



バイブロハンマー

③ 油圧ハンマーによる打設状況

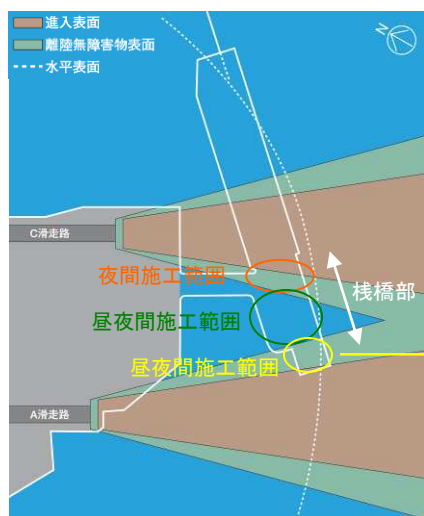


油圧ハンマー

④ 打設完了

2. 制限表面下での作業

基礎杭の打設は、東京国際空港（羽田空港）空域制限の影響を受けない範囲は昼夜間施工を行い、影響を受ける範囲は夜間の制限解除された時間帯に夜間施工を行います。



制限表面と作業範囲イメージ

※ A滑走路の制限表面の影響を受ける範囲では、制限表面下での施工が可能となるように、機械高の低い300t吊級の杭打ち船を使用し、3～4本の継ぎ杭で施工します。

3. 棧橋部の今後の工程（現在の予定）

H20年 1月上旬 工事区域にてジャケット据付工 開始予定

H20年 3月 工事区域にてプレキャスト床版据付工 開始予定

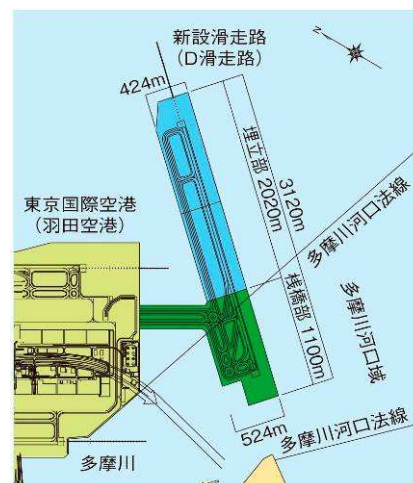
東京国際空港D滑走路建設工事の概要

1. D滑走路の構造

東京国際空港（羽田空港）の4本目の滑走路（D滑走路）建設工事は、埋立構造に、多摩川から流れ出る河川水の通水性を確保するための栈橋構造（ジャケット）を組み合わせたハイブリッド構造になっており、連絡誘導路橋により、現空港に接続されます。



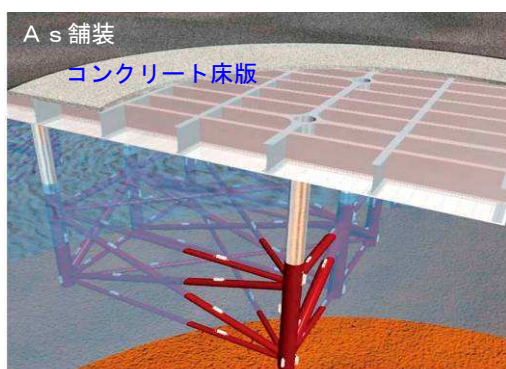
D滑走路完成イメージ図



D滑走路平面図

2. 栈橋部の構造

栈橋部は、海中に打設した鋼管杭、鋼管杭に据え付けられた鋼製のジャケット及びジャケット上部桁上に敷設されたコンクリート床版と舗装で構成されます。基礎杭（最長：約91m）を海底下約70mの深さまで地盤に打ち込み、軟弱地盤からはるかに深い基盤層まで杭を打ち込むことで、沈下がなく、地震にも強い栈橋が完成します。

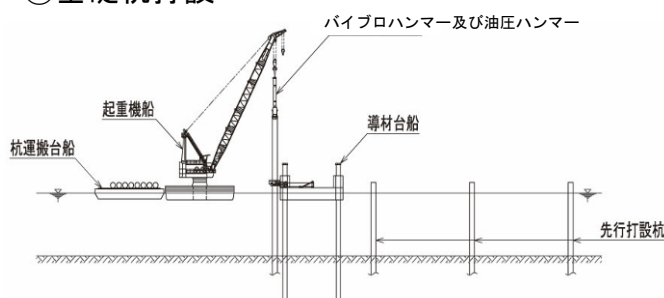


栈橋部ジャケットの構造

- ・ 栈橋部ジャケット基数
198基
- ・ 1基当たりの標準寸法
W6.3m×L4.5m×H3.5m
- ・ 1基当たりの標準的な重量
約1,300トン
- ・ 基礎杭本数
約1,170本

3. 栈橋部の施工方法

①基礎杭打設



②ジャケット据付

